

報告事項 1

「第 8 回神戸マラソン」応募状況等について

「第 8 回神戸マラソン」応募状況等について、以下のとおり報告する。

平成 30 年 7 月 23 日 提出

神戸市教育委員会

教育長 長 田 淳

第 8 回 神戸マラソンの応募状況等について

1 ランナー応募総数 75,140人（昨年度 75,048人）

〔内訳〕

※（ ）内は昨年度実績

種目	定員	応募総数 a	倍率	区分	人数	細区分	人数 b	組数	構成比 b/a	出走予定 人数
マラソン	20,000 (20,000)	75,140 (75,048)	3.76 (3.75)	個人	64,957 (64,102)		64,957 (64,102)		86.4% (85.4%)	17,280
				グループ	10,183 (10,946)	2人	7,048 (7,454)	3,524 (3,727)	9.4% (9.9%)	1,880
						3人	3,135 (3,492)	1,045 (1,164)	4.2% (4.7%)	840

〔主な特別枠の応募数〕

特別枠	応募総数	定員 対象者数	倍率	備考	
神戸マラソン 応援ランナー枠	350 (200)	350 (200)	—	350人先着順	
シード枠	330 (333)	428 (426)	—	申込者は全員当選	
年代別 チャレンジ枠	4,958 (4,475)	2,000 (2,000)	2.48 (2.24)	2,000人当選	ダブル 抽選
キラキラ女子 ランナー枠	4,097 (3,769)	500 (500)	8.19 (7.54)	500人当選	
神戸マラソン 初出場枠	29,858 (30,478)	2,000 (2,000)	14.93 (15.24)	2,000人当選	

※被災地枠：東日本大震災被災地から852人

熊本地震被災地から384人

※障がい者枠：308人

※海外居住者枠：1,386人

2 日程

- 4月2日 「神戸マラソン応援ランナー枠」のみ先着受付開始
- 4月5日 一般枠・特別枠の募集開始（～5月14日）
- 6月12日 抽選結果を応募者にEメールで通知
- 7月4日 当選者参加料入金締め切り
- 7月4日 海外居住者枠募集締め切り

10月中旬	参加案内のお知らせ（大会ホームページに掲載）
10月中下旬	交通規制のお知らせ配布
10月下旬	横断幕・案内看板の設置
11月16・17日	参加受付（神戸国際展示場）
11月18日	第8回神戸マラソン

3 ボランティア応募状況

- (1) 募集人数：7,200人（団体、個人の合計）
- (2) 募集開始：団体4月20日～、個人5月18日～（いずれも先着順）
（7月9日募集締め切り）
- (3) 応募状況：7,283人
 - 内訳（団体）186団体 6,608人
 - （個人） 675人

第8回神戸マラソンの開催準備状況について

I 第8回大会の重点項目

1 マラソンランナー2万人に対応した安全・安心な大会運営の充実

(1) ウェーブスタートの継続実施

「道幅が狭い」というランナーからの声がある中、スタート付近やコース沿道の混雑緩和を図り、定員2万人に対して、より安全で効率的な運営を行うため、時間差スタートを継続実施する。

(2) スタートブロックの適正化

スピードランナーグループを先頭に配置し、過去2年以内のベストタイム及び、予想タイムの精査を行うとともに、タイムに応じた適正なブロック割を行い、ランナーの安全を確保するとともに、記録の向上を狙う。

(3) ランナーサービスの充実

- ① コース上の仮設トイレの基数を工夫する。
- ② 給水・給食の効果的な配置と数量を準備する。

(4) マナーアップの啓発

競技上のマナー等を、大会ホームページやEXPO、スタート地点や給水所等で等で積極的に啓発し、大会の質の向上を図る。

(5) 救護・警備体制の充実

< 第8回大会での新規対策 >

① まちかど救急ステーションの活用

固定AED隊及び自転車AED隊に加え、まちかど救急ステーションとして登録のある、コース沿道付近のAEDを活用し、心肺停止事案への対応の充実を図る。

<従来からの継続対策>

① 重症事案への対応

競技中に発生する重症事案に迅速に対応するため、競技役員、ボランティア、救護スタッフ各々の役割分担の確認、相互連携を強化し、救護体制の充実を図る。

② 緊急時対応訓練

緊急時対応マニュアルを基に、災害や大事故、テロなどの発生、重症事案への対応を想定した初動体制の訓練を9月14日(金)に行い、大会関係者へ対応フローの周知徹底を図り、危機管理意識を高める。

2 国際陸上競技連盟「ブロンズラベル」の取得

第7回大会終了後、大会レポートを国際陸上競技連盟(IAAF)に提出。第8回大会はブロンズラベルを取得した。

(1) 国際陸上競技連盟(IAAF)ロードレースラベルの内容

- ・2007年に国際陸上競技連盟(IAAF)が国際マラソン・ディスタンスレース協会(AIMS)と共同して設定した国際ロードレース規格
- ・ロードレースラベルをゴールド、シルバー、ブロンズに分類
- ・ラベルごとに異なる基準設定があり、クリアした基準のラベルを取得

(2) ブロンズラベル取得の主な条件

- ・国際エリートランナーとして2016年1月1日以降に男子2時間13分45秒以内、女子2時間36分30秒以内の公式記録を持つ男女各6名を4か国以上から招待しなければならない。

※エリートランナーがレースを完走しなかった場合、エリートランナーとしての数に入れることができない。

- ・選手に付帯する宿泊、食事、旅費、出場料等の経費を支払う。
- ・ドーピング検査は、IAAFのアンチドーピングの規程に従って行う。

(3) ラベル取得の目的

① 他大会との差別化

大阪マラソンや京都マラソンなど近畿圏内で開催されている他大会もラベルを取得しておらず、国内では東京マラソンなど選考レースを中心に10大会のみの取得となっていることから、ブロンズラベルを取得することで、近年開催が増加している他大会との差別化を図ることができる。

② 大会の国際性と認知度の向上

ラベルを取得している大会は世界で約100大会あり、マラソン大会情報誌「Distance Running」（AIMSとIAAFが世界のランナー向けに年間100万部発行）やIAAFのホームページにラベル取得大会として掲載されるため、海外ランナーにも「走ってみたい大会」として認知される。大会の認知度が向上することで、インバウンドの増加や地域活性化の寄与とともに、企業等への評価向上の効果も期待できる。

③ 大会の競技性の向上

ラベルを持つレースを走ること目標にするランナーや、エリートランナーが増加することで、競技性の向上を図ることができる。

3 MCC（マラソンチャレンジカップ）への参加

(1) MCCの理念

トップエリート層はもちろん、準エリート層の強化も目指し、さらには市民ランナー層を活性化し走る裾野を広げること。長野マラソン（ブロンズラベル取得大会）をはじめとする、国内40大会が参加している。（平成30年4月現在）

(2) MCCへの参加理由

第8回神戸マラソンは、IAAFブロンズラベルを取得し、「国際的で競技性の高いレース」と「市民ランナーも楽しむことができるレース」を兼ね備えたさらに魅力ある大会を目指しており、MCCの理念と神戸マラソンの目標が一致したため。

(3) MCCの提供サービス

① 1億円アワード

日本記録を更新した選手（男女各1名）に「1億円」の賞金を授与

※一般社団法人日本実業団陸上競技連合のマラソン特別強化プロジェクト「Project EXCEED[®]」と共同運用

※対象選手：日本陸上競技連盟へ登録済みの日本人選手

【参考】男子日本記録：2°06'11"、女子日本記録：2°19'12"

② 市民アワード

〔賞金部門〕

神戸マラソンの大会記録を更新し優勝を達成した選手（男女各1人）に「最高100万円」の賞金を授与

金額	男子更新記録	女子更新記録
100万円	2°09'59"以内	2°24'59"以内
50万円	2°10'00"～2°14'59"	2°25'00"～2°34'59"

※対象選手：日本陸上競技連盟へ登録済みの日本人選手

※神戸マラソン大会記録

男子：2°12'49"、女子：2°33'14"

〔顕彰部門〕

4つの特別記録証（WEB版）を発行

- ・男子：サブ3（3時間以内で完走した者）
- ・女子：サブ3.5（3時間30分以内で完走した者）
- ・初フルマラソン完走者
- ・自己ベスト記録更新者

4 3つの大会コンセプトの具現化

(1) チャレンジマインド [ランナーが自ら挑戦し続けるための取り組み]

① 神戸マラソン応援ランナー枠

兵庫県または神戸市に10万円以上「ふるさと納税」をされた方に出走権を進呈

② シード枠

自己記録更新を目指すランナーを応援

③ 年代別チャレンジ枠

継続してトレーニングを積んでいる市民ランナーを応援

④ キラキラ女子ランナー枠

マラソンへの参加で自分にチャレンジする女性ランナーを応援

⑤ 神戸マラソン初出場枠

神戸マラソンに初めてチャレンジするランナーを応援

⑥ 神戸マラソン・ジャパントップ8入賞者表彰制度 新規

国内居住者のうち、前回大会の男女8位までに入賞された方を表彰し、今大会の招待選手として招聘

⑦ 連続入賞者表彰制度 初表彰

第6回大会以降、3年連続で総合または年代別8位までに入賞された方を表彰（表彰は第8回大会から）

大会参加へのモチベーション向上を図るため、当制度を大会前に周知

(2) ホスピタリティマインド [大会の魅力化・ブランド化の促進]

神戸マラソン実行委員会構成団体、スポンサー等が実施するイベントとタイアップしたPRの実施により、大会当日に向け、一層の機運醸成を図る。

また、スポーツツーリズムの観点からも、神戸マラソンの個性化を図り魅力あるものにするため、兵庫・神戸の街の特性(ジャズ・スイーツ・グルメ・ファッションほか)を活かしたプログラムを継続して実施し、大会のブランド化に努める。

さらに、県・市の関係部局、外郭団体、国際・観光関係団体とも連携し、国内外に住む外国人へのPRにも努め、大会への参加を促進し、国際的な大会を目指す。

また、兵庫県内各地で開催されている公認マラソン大会での成績優秀者を神戸マラソンに招待し、相互の連携を深める取り組みを行う。

① 海外誘客対策

<第8回大会での新規対策>

- ・韓国の済州国際観光マラソン（5月27日開催）で、神戸観光局と連携して、大会情報を現地でPR
- ・タイでの神戸観光局のネットワーク拠点会社へ委託し、現地旅行社等で大会PR情報を発信
- ・ポーランドランニング協会と連携し、同協会ホームページへ神戸マラソンの大会バナーをリンク掲載し、大会情報を発信
- ・熊本城マラソン、東北・みやぎ復興マラソンのホームページへ神戸マラソンの大会バナーをリンク掲載し、大会情報を発信
- ・フォロワーの多い海外向けの民間SNS媒体へPR写真及び動画掲載を委託し、東南アジア等向けに大会情報を発信

※海外居住ランナー応募数：1,386人

（第7回大会応募数：1,313人、出走数：1,148人）

<従来からの継続対策>

- ・公式のインスタグラムにより大会情報を発信
- ・多言語字幕付PR動画を作成し、動画サイト「YouTube」で公開
- ・海外のランニング専門誌「Distance Running」にエントリー情報を掲載
- ・JTBスポーツステーション(JSS)会員向けに、大会PRメールの配信
- ・日本政府観光局(JNTO)海外現地事務所等での大会情報の発信
- ・(一財)神戸観光局や在神の領事館、外国政府事務所、外国人団体等との連携によるPR
- ・海外兵庫県人会を通じた大会情報の発信

- ・ゴールドコーストマラソンで大会PRブースを出展
- ・台湾、韓国、香港等での観光プロモーション等でのPRチラシの配布
- ・海外居住ランナーの応募を先着順とし、同時入金によりエントリーが確定する方式を採用。募集期間を7月4日（水）までに延長し、宿泊予約サイトへの案内も実施

② 「神戸マラソン・シリーズイベント」の認定

兵庫県内で実施される神戸マラソンのPR、開催機運の盛り上げに寄与する事業を公募し、内容審査の上、「神戸マラソン・シリーズイベント」として認定することで、当該事業とタイアップした大会PRを実施する。

- ・ イベント主体：神戸マラソン主催者、実行委員会構成団体、スポンサー等
- ・ 対象期間：10月1日から11月18日（大会当日）まで
- ・ 内容：認定イベント事業名称への「神戸マラソン・シリーズイベント」呼称の付記（イベント告知印刷物、看板類等）と、特典としての大会ホームページ等での認定事業の紹介

③ ジャズイベント

ジャズ演奏による沿道応援の充実を図るとともに、「ジャズの街神戸」らしいおもてなしを行う。

④ 神戸スイーツの提供

兵庫・神戸ゆかりの洋菓子・和菓子をランナーへのおもてなしとして提供する。

⑤ グルメ広場

EXPOにグルメエリアを設置し、多彩なグルメブースを出展する。

⑥ おしゃれランナー賞

EXPOに「おしゃれランナーブース」を設置し、おしゃれランナー賞のエントリーを受け付け、「ファッション都市神戸」の魅力を発信する。

⑦ 絵手紙によるランナー応援

地元の小学生等による絵手紙メッセージカードをランナー全員へ贈る。

⑧ 海上からの応援

漁船及び神戸市消防艇等による応援放水などで大会を盛り上げる。

⑨ 地場産業との連携

ランナー等への真珠製品、淡路瓦製品、灘五郷の清酒等の提供をはじめ、完走メダルのリボン、フィニッシュテープに神戸タータンデザインを使用するなど、兵庫・神戸の地場産業と連携した取り組みを続ける。

⑩ 被災地交流事業

スタートセレモニーにおいて、高校生による合唱を行うなどして、東日本大震災被災地等との交流を図る。

⑪ 県政150周年記念事業 新規

大会広報物(ポスター、募集パンフレット等)、ランナー配布物(参加賞Tシャツ、フィニッシュータオル等)に県政150周年記念のロゴを使用する。

⑫ 「KOBE MARATHON HYOGO MAJORS」 新規

平成29年4月～平成30年3月までの期間中に、兵庫県内で実施された公認マラソン6大会から成績優秀者男女各1人、計12人を神戸マラソンに招待する。また、6大会事務局の各ホームページで互いのバナーを掲載するなど、連携したマラソン大会の広報を行っている。

⑬ 「記録速報」ダウンロードサービス 新規

大会当日に完走者全員が「記録速報」をPDF形式でダウンロードが可能。

※順位の記載された「完走証」は12月中旬からダウンロード開始予定。



(イメージ図)

(3) ボランティアマインド [震災復興の教訓と感謝を国内外に発信]

① 感謝と友情のひまわり

スタートセレモニーにおいて、ランナー「2万人で咲かせる『感謝と友情』のひまわり」と「しあわせ運べるように」の合唱を引き続き実施する。

さらに、震災復興の象徴である、ひまわりの花をイメージした黄色の手袋をボランティアや大会関係者、沿道応援者に配布するとともに、黄色の手作り応援グッズの自発的な作成をホームページ等で呼びかけ、コース沿道にひまわりが咲いているような一体感のある取り組み「みんなで咲かせる『感謝と友情』のひまわり」を継続して実施する。

② 通訳ボランティアの募集

年々増加する海外からのランナーに対応するため、通訳(英語・中国語・韓国語)ボランティアを幅広く募集した。

通訳ボランティアであることが一目で分かるように目印を付け、よりスムーズな運営をする。